

リコーダーとリュートによる ロベール・ド・ヴィゼーの小品集

リコーダー

本村睦幸

リュート

坂本龍右



ロベール・ド・ヴィゼー(1650頃～1725)
テオルボとチュートのための小品集より
ほか

2016年7月1日[金]
Space 415

中野区新井2-48-12
<http://space415.info/>

JR中央線／東京メトロ東西線
中野駅北口より徒歩12分

野方警察署近く、区立野方児童館の隣
「芦野」の表札がある入口を入ってすぐ右の建物の2階

休憩なし60分のトークコンサート
同プログラム3回公演

昼 13:30 開演 (13:00 開場)
夕 16:00 開演 (15:00 開場)
夜 19:40 開演 (18:30 開場)

全自由席 ¥3,000 要予約

■ご予約・お問い合わせ

デ・ルストホフ: lusthof.concerts@gmail.com

あしの: 090-6045-9311

<http://mutsuyukimotomura.com/>

中野の Space 415 で、トークを含め、休憩なし 60 分のプログラムを 1 日 3 公演行う「小さな室内楽」第 17 回は、バーゼルを拠点として大活躍中のリューティスト、坂本龍右さんをゲストにお迎えして、ロベール・ド・ヴィゼの作品をいろいろな形でお聴きください。ド・ヴィゼは、ルイ 14 世時代のヴェルサイユを代表するギター、リュートの音楽家です。この時代のギターやリュートの作品は、通常の五線譜ではなく、タブラチュア（奏法譜）で記譜されるのが一般的ですが、ド・ヴィゼの作品には 2 段の五線譜でも記譜されたものが少なくありません。旋律楽器と通奏低音の編成でも演奏されたのだらうと思われます。それらの小品をアルトリコーダーだけでなく、ヴォイスフルートや 4 度フルートなどいろいろな種類のリコーダーを用いて演奏します。もちろん、坂本さんによるソロの形でもご堪能ください。どうぞお楽しみに。



中野駅より徒歩約 13 分、赤系、青系矢印どちらからもいらっしやれます。が、お薦めは北口左手のエスカレーターを上り平和の森公園を通り抜ける青系コースです。

小さな室内楽第 18, 19 回予告

8 月 5 日 (金)

本村睦幸 (リコーダー)、佐藤駿太 (ヴァイオリン)、
上田朝子 (リュート)、折口未桜 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)
< デュパールの組曲 >

9 月 14 日 (水)

本村睦幸 (リコーダー)、栗形亜樹子 (チェンバロ)
< オトテールの組曲 > ほか

本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)

アムステルダム音楽院卒。W.ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年に渡る活動を経て、2001 年に帰国。リコーダー音楽が花開いたルネサンス・バロック時代の室内楽の楽しみを現代に活かすことを夢見て、愛好家の方々にとっての聴く喜び、奏でる喜びの双方を見据えた活動を展開している。2009 年には「東京リコーダー音楽祭 2009」(読売新聞社主催)のディレクターを務めた。現在は、リコーダーに本来的な小さなサロンのあり方を探る〈小さな室内楽〉シリーズを東京での活動のベースにおきながら、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる〈本村睦幸リコーダーシリーズ〉や、古楽器に限らない多様な演奏家との共演、現代作品の委嘱なども通じてリコーダー音楽の可能性を追求している。CD に「オランダバロックの愉悅」、「バルサンティ:リコーダーソナタ全 6 曲」、「無伴奏リコーダー 600 年の旅」があるほか、昨年、CD「テレマン:無伴奏フルートのための 12 のファンタジア」に加えて、同曲集のアルトリコーダー版を全音楽譜出版より校訂出版している。ホームページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

坂本龍右 Ryosuke Sakamoto (リュート)

奈良に生まれる。幼少時より古楽器に親しみ、3 歳でサズ(ロングネック・リュート)を手にして以来、リュート及びヴィオラ・ダ・ガンバを次々と習得する。1994 年、全日本古楽コンクールにおいて最年少で本選に進み、注目を浴びる。カテリーナ古楽合奏団、バッハコレギウムジャパンを始めとする日本の著名な古楽団体と共演を重ねる。その後、東京大学文学部思想哲学学科(美学芸術学専攻)を卒業。2008 年、スイスのバーゼル・スコラ・カントルムに留学し、リュートをはじめとする撥弦楽器をホブキンソン・スミス氏に師事、2011 年に優秀賞付きで修士課程を修了。同校に新設されたルネサンス音楽科に進み、アン・スミス氏にルネサンス音楽理論を、クロフォード・ヤング氏にプレクトラム・リュートを師事し、2013 年に修了。同年ラウリア(イタリア)で行われた国際古楽コンクールにて、リュートソロ部門第 1 位(2 位なし)、ならびに聴衆賞を得る。リュート奏者として、自身が中心となって結成した「イル・ベッルモレ」をはじめ、イングリッシュ・コンソートの編成による「クィーンズ・レヴェルズ」、リュート・カルテット「ディライト・イン・ディスオーダー」などのメンバーとして活躍するほか、ソリストとしてもこれまでに、フランス・ドイツ・イギリスの各リュート協会から招聘されている。